

本県観光を取り巻く状況と コロナ禍に思うこと

齋藤 善一

(一般社団法人秋田県観光連盟 会長)



当連盟は、本県の観光振興を目的に昭和20年代から活動してきた秋田県観光協会の流れを汲み、平成4年に法人化され今日に至っております。

現在、県内の市町村、宿泊事業者、交通事業者、旅行事業者、商工団体、金融機関など約450の団体・個人が会員となっており、県と役割分担をしながら、国内外からの観光誘客に向けて様々な取組を進めているところです。

インバウンド関連では、台湾からの誘客を軸に、県と連携した誘客プロモーションや商談会の開催のほか、観光関連施設における外国人受入態勢の向上支援やSNS等による観光情報の発信にも力を入れております。

また、国内誘客については、首都圏での商談会や旅行会社へのセールス活動、行政と民間が連携した教育旅行の誘致にも取り組んでおります。

このほか、特徴的な取組として、高齢者や障がい者、外国人、ペット連れなど、誰もが旅行を楽しむことができるバリアフリー観光を積極的に推進しており、宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や体の不自由な方を対象としたモニターツアーなども実施しております。

【秋田県の観光の状況】

本県観光の中長期的な動向は、インバウンドについては、全国的な増加傾向と同様に、台湾

を中心とした東アジア諸国からの旅行者数が伸びを見せてきており、日韓情勢や台湾定期チャーター便の運航停止の影響もあり伸び率は若干鈍化しているものの、昨年の外国人延べ宿泊者数は13万9千人で、前年比12.9%の増加となりました。

一方、人口減少や消費動向の変化により、ここ数年減少が続いていた国内旅行者については、近年の緩やかな景気回復を背景に国内旅行需要が微増傾向にある中、京都など我が国の主要観光地に見られるオーバーツーリズムを敬遠した国内観光客の増加もあって、昨年1年間のインバウンドを含む延べ宿泊者数は365万人で、伸び率は前年比4.3%の増加となっております。

また、県が実施している観光統計調査によると、本県の主要観光地の入込客数は3,527万人で前年比2.3%の増加、観光消費額は1,179億円で前年比5.3%の増加といずれも伸びており、数字を見る限り好調に推移しております。

【コロナ禍への対応】

こうした状況をさらに高めるべく、今年度は、国内外からの誘客の取組を一層強化していこうと準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の発生・拡大により、本県観光はいまだかつてない大きな影響を受けており、当連盟も、商談会やセールス活動など、多くの事業

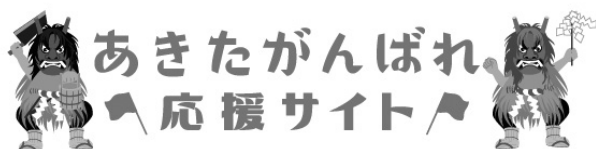
を中止せざるを得ない状況となりました。

このため、4月に約100箇所の会員施設を訪問して、コロナ感染症拡大の影響のほか、行政や当連盟への要望等についてヒアリングを行い、この結果を踏まえ、今年度の事業計画を見直して新たな取組を始めました。

具体的には、民間企業会員の会費を減免したほか、会員施設がコロナ感染対策として実施する取組（消毒液、マスク、体温計等の購入、販促用チラシの作成等）を支援するとともに、各施設が取り組んでいる感染対策や新たに始めた宿泊プラン、通販事業などの情報を秋田県総合観光サイト「あきたファン・ドット・コム」の専用ページで発信しております。

●あきたがんばれ応援サイトURL

<https://www.akitafan.com/pages/akibare>



また、Withコロナの時代における新たな旅のスタイルを探るため、バスの乗車人数を制限し、検温やマスクの着用を徹底するなど、衛生管理、健康管理に最大限配慮したモデルツアーを企画し、29名の県民の方々の参加を得て実施しました。

参加者からは、安心して旅行を楽しむことができたという評価をいただいた一方で、主催者や受入側の感染防止対策に要する負担が大きく、課題も残る結果となりましたが、今後も、Afterコロナに向けたこうした取組を継続していく必要があると考えております。



(バス乗車前の検温)



(3密を防いだ上での西馬音内盆踊りの観覧)

国内の感染拡大が止まらず、「3密」を避ける傾向がますます高まる中、従来どおりのやり方では観光客の心を捉え消費を促すことは難しいと指摘されており、都道府県をまたぐ遠距離移動の旅行ではなく、車で1時間程度で行くことができる地元エリア内を旅行する「マイクロツーリズム」という言葉が注目されております。

本県においても、県は「秋田県プレミアム宿泊券」を発行し、県民の県内旅行を促し県内観光施設を支援しているほか、感染の終息状況を見極めながら隣県、東北、全国へと観光客の流動を広げていくという戦略を取っており、当連盟としても、こうした考えのもと、旅行エージェントによる県内送客の取組に対する支援などを行っております。

【Afterコロナに向けて】

遠くへ旅をして美しい景色を見たい、いろいろな体験をしたいという人間の普遍的な欲求は簡単になくなるものではなく、歴史をさかのぼってみてもオイルショックやリーマンショック、東日本大震災の際も、一時的には旅行者数が落ち込んだものの、その後すぐに回復が見られたように、観光産業は短期的には打たれ弱く長期的には打たれ強い産業と言われております。

また、現在はコロナ感染症の終息を見通すことはできませんが、いずれは終息し、終息後は社会全体の価値観や人々のライフスタイルはもとより、観光のあり方も劇的に変化することが予想されます。

6月に大手旅行会社が行ったコロナ感染拡大終息後の旅行再開に向けた意識調査によると、「すぐに行きたい」旅行は「自然が多い」旅行という回答が上位(19.3%)となったほか、コロナ禍の中にあっても全国のキャンプ場が大盛況となるなど、今後は「3密」を避けるという意識が定着し、旅行先として「自然」を求める人が多くなるものと考えております。

こうしたことを踏まえると、風光明媚な大自然を有する本県にとっては、今はある意味チャンスであります。来るべきAfterコロナを見据えて、感染拡大防止対策を万全にすることはもちろんですが、各地域において恵まれた自然を活かした観光コンテンツの磨き上げをすることが

重要であり、当連盟としてもそうした取組を支援してまいりたいと考えております。



(中島台・獅子ヶ鼻湿原<にかほ市>)

【会員の募集】

当連盟では、新規会員を募集しております。会員の特典として、商談会等への参加やHP・SNS等による情報発信、各種イベントでのパンフレットの配布のほか、正会員においては、各種補助制度を活用することもできます。各種団体、個人の皆様からの入会を心よりお待ちしております。

- ・ 正 会 員：当法人の目的に賛同して入会する個人又は団体
(1口 5,000円 5口以上)
- ・ 賛助会員：当法人の目的に賛同し、事業の推進を支援する個人又は団体
(団体：1口 5,000円 1口以上
個人：1口 1,000円)

問い合わせ先：一般社団法人秋田県観光連盟
(TEL：018-860-2267)

連 盟		概 要	
1 名 称	一般社団法人秋田県観光連盟	6 U R L	観光情報「あきたファン・ドット・コム」 https://www.akitafan.com/
2 代 表 者	会長 齋藤 善一	7 設 立	平成4年7月1日
3 所 在 地	〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1	8 職 員 数	11名(令和2年8月末)
4 T E L	018-860-2267	9 事 業 内 容	観光情報の発信、観光客の誘客及び 受入態勢の整備
5 F A X	018-860-3916		